

【報告・分析】義足のランナー、ハセツネ（30km）に挑戦

～残念ながら第一関門でタイムアウト～

【レース結果報告】

- ・4月3日朝8時半、曇天の武蔵五日市。札幌から参加した義足ランナー藤澤孝浩は、伴走メンバーとともにスタートした。チーム構成は3人の伴走とカメラマン。そして別ルートで2人のサポーターが入った。
- ・スタート直後から最終走者となったものの、林道を駆け上がり、北沢峠まではほぼ予定タイムで通過した。しかし、その後アップダウンの続く山道に入ってから急速に遅れ始め、第一関門でレースは終了した。
- ・第一関門に到着したのは13時50分。制限時間の50分遅れ。残念ながら完走は果たせなかった。
- ・今回の取り組みでは完走は果たせなかったものの課題は見えてきた。プロジェクト効果も感じられた。



【チーム・アプローチの分析】

○準備が出来たこと／出来なかったこと

チームを結成したのが1月。そこから2か月あまり、限られた時間のなかで準備を進めたが、出来たことと出来ないことがあった。

出来たこと：コース研究、情報共有

- ・メンバーにはハセツネのベテランがいた。コースタイム計画を作成するとともに、メンバーの何人かは事前に試走を行い、現在のコース状況を把握した。
- ・情報共有のために3回¹のミーティングを行った。ミーティング以外にもメールを使って日常的に連絡を取り合った。

出来なかったこと：体力と技術力の向上

- ・30kmレースへのチャレンジ難易度に比してトレーニング量は十分ではなかった。持久力の向上が課題か。
- ・技術についても改善の余地があると考えられたが、検討時間がなかった。身体の動かし方を改善するとともに、トレラン用義足の開発を提案するレベルまで研究を深めることが理想。

○プロジェクトの面白さ

- ・様々な専門性、経験、人的繋がりをたくさん持ったメンバーが揃った。ほとんど初対面であったが、まとまり度は高かった。それぞれが義足ランナーの完走に向けて力を活用しあう楽しさがあった。障害をもつランナーのサポートは多角的に行う必要があるため能力の組み合わせとチームワークは重要。



¹ 2月20日に新宿にて伴走チーム（丸島、國井、蕪澤、西川）、2月27日に札幌にて（藤澤、大川原、西川）、4月2日のレース直前に会場にて（佐々木<ハセツネ事務局>、藤澤、大川原、國井、西川）。

【障害者トレランの環境】

- ・障害者がトレランを走るための環境が改善されている。ハセツネ事務局が障害をもつランナーの受け入れに前向きに考えてくれた。2015年から「障がい者トレイルランニング委員会」が設置され、「トレイルランニング障害者用競技ルール」が制定された。

【コース】

4月3日（土）

8時30分スタート～15時30分フィニッシュ

秋川溪谷リバーティオ会場→小和田橋→五日市警察署前→黒茶屋前→沢戸橋→盆堀林道→北沢峠→トッキリ場→弾左右衛門峰分岐→市歩地→市道山分岐→醍醐峠→醍醐丸15kmポスト→篠窪峠→篠窪峠仮設登山口→醍醐林道→盆堀林道→入山トンネル上登山道→トッキリ場巻道→入山峠→今熊山頂上→金剛の滝上→変電所→日向峰分岐→秋川溪谷リバーティオ会場



【藤澤孝浩 サポートチーム】

ランナー：藤澤孝浩（プロフィール参照）

メンバー：

（伴走者） 國井健三（ハセツネクラブ、山たのクラブ、ハセツネ22回完走）

大川原辰也（札幌在住、医師）

菫澤絵梨花（大雪トレイル同行ラン）

小柴拓斗（カメラマン、高校生トレイルランナー）

（サポート） 西川雅明（プロジェクト代表、UCN、バンバン、ハセツネ10回完走）

丸島康義（ハセツネクラブ、山たのクラブ、バンバン、ハセツネ13回完走）

岩間日出夫（バンバン）

【ハセツネ30の概要】

- 第8回（2009年～2016年）
- 主催 一般財団法人 日本山岳スポーツ協会
- 主管 一般財団法人 日本トレイルランニング協会
- 参加者 約2000人
- コース 奥多摩山城（30km／7時間制限）
- 趣旨 自己の限界を追求するトレイルランニングの最高峰ハセツネCUPの入門レース。トレランの普及発展と自然保護精神の啓発を目指す。

【義足ランナー プロフィール】

- 藤原孝浩 1960年12月25日生（55歳）男性
- 左足下腿膝下5cmからの欠損
- ラン専用義足「オズール+ナイキソール」
- トレラン成績
 - ・2015年第3回大雪ウルトラ25km（15kmDNF）
 - ・2015年第1回十勝岳トレイル25km完走（5h27m）
- トレーニングは藻岩山往復、桑園公園ラン、ジムでウェイトトレーニング、スイム